

激動の幕末・明治維新史料

3班 班活動・班長による河井継之助を訪ねる旅の説明

この写真は10月26日、服部緑地のコスモスを撮影

3班広報担当 2022年11月8日

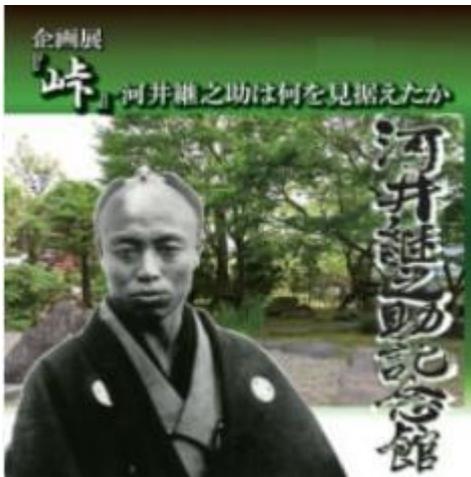
特別講座激動の幕末・明治維新史料の第16回講義中村先生の最終回です。講義のレジメ(戊辰戦争)を頂きました。午後は3班自主活動で『映画&小説「峠」の舞台へー河井継之助を訪ねる旅ー』に班長が行かれたのを以下の通り説明された。

《内容》

激動の幕末の越後長岡藩が輩出した風雲児・河井継之助の生涯を辿り、その生涯を閉じた終焉の地であるJR只見10年ぶりの全面復旧に沸く会津塩沢地区を班長が訪ねられた。小学生も只見町河井継之助記念館を訪れたのには班長もびっくりされた。

明治維新新政府軍と長岡藩の立場との板挟みに苦悩し、彼が目指した藩政改革と社会の運命の負に甘受し、しかし最後は義理・武士道に生きた最後のサムライ・河井継之助を越後長岡・南会津地方が戦場となった只見戊辰戦争の史跡と継之助の終焉の地を訪ねる旅であった。

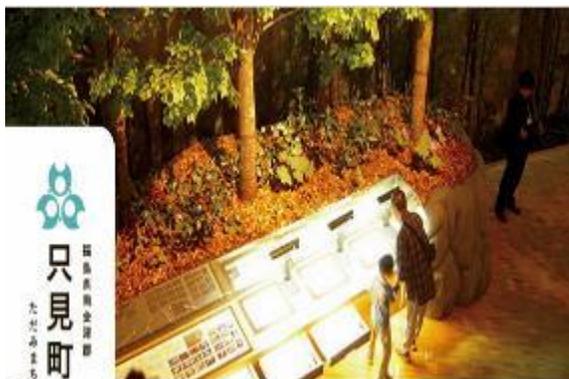
班長は今日、最後の戊辰戦争のレジメの中から5月2日小千谷会議(長岡侯牧野忠訓の家老河井継之助、東山道先鋒総督府監軍岩村精一郎)。決裂し牧野家が新政府に抗する。3日、仙台で奥羽列藩同盟。10日、洛東霊山に東山招魂社設置(のち霊山招魂社、現霊山護国神社)。13日、小千谷朝日山の戦い。19日、北越長岡城落城。河井継之助はすでに死期を予感し、従者松蔵に死期の準備を命じ、その夜静かな眠りに入った。時に慶応4年(1868)8月16日であった。



河井継之助記念館と企画展「峠」



ガトリング砲2台を長岡藩で 河井継之助記念館と企画展「峠」
買い求める



只見町の戊辰戦争史跡を見る小学生



河井継之助終焉の間